

平成23年度 企業間等連携支援事業（Aタイプ） 男鹿市商工会（秋田県）



「地域資源「男鹿ハタハタ」を活用した 冬季誘客のための産業間等連携シンポジウム開催事業」

【事業目的】

観光を大きな糧とする男鹿市にとっては、通年観光の確立が大きな課題であり、冬季オフシーズンにおいて、新たな観光資源の発掘や魅力向上を図ることが求められている。そこで、冬の味覚「男鹿ハタハタ」を共通の地域資源と位置付け、市内の企業・団体、農林漁業関係者及び市民等に呼び掛け「男鹿ハタハタ」をテーマとしたシンポジウムを開催し、それぞれが有する経営資源、ノウハウ、アイデア、文化、歴史等を交流・連携させることにより、かかる課題解決に結びつける機会とするものである。

【事業実施状況】

●シンポジウムの開催

日時：平成23年12月6日（火）14：00～15：40
会場：男鹿温泉交流館「五風」

～男鹿ハタハタ活用促進のための産業間連携を考える～
コーディネーター 杉山秀樹氏（県立大教授、ハタハタ博士）
パネリスト 浅利香津代氏（秋田出身女優）
山本次夫氏（市観光協会副会長、温泉旅館雄山閣社長）
諸井秀樹氏（諸井醸造所社長）
渡部絢也氏（シンガーソングライター）

参加者）男鹿市役所、漁協、観光協会、温泉組合等関係機関
市内企業、市民等 172名

※ハタハタ（鱸）とは

魚辺に神と書き、神の魚とも呼ばれる県魚。毎年12月上旬、海が荒れる時期に産卵のため男鹿沿岸に押し寄せる。地域の食文化しよつつの原材料にもかかせない資源。

【成果・今後予想される事業効果】

今回のシンポジウムでは「ハタハタ」は地域にとって有望資源であり、冬季観光活性化に活かしたいとの問題意識を改めて確認できた。そのためには、産業・団体間の連携、地域間の連携が必要不可欠であり、英知を結集するためには今回のような話し合いの場が必要との認識を得た。具体的な提案としては、

- ①「男鹿のハタハタの日」から「県のハタハタの日」と拡大するよう要望する。
- ②広域連携を促進するシンボルとして国道7号・101号沿線を「ハタハタぶりこライン（仮称）」と愛称化することを要望する。
- ③ハタハタロックサンバ・しよつつの講習会など新たな取り組み・人材を地域ぐるみで応援する。
- ④地域の横断的な協議会など街ぐるみでハタハタの街おこしムーブメントをおこす。

今後は、上記について、商工会の役員会に提案し行政に働きかける等、具体化に結びつけることとする。また、今回のシンポジウムが産業間等の促進に大きな成果があることの認識に立ち、今後も継続して実施することとし、かかる課題解決に結び付けたい。